

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	青葉学園	施設種別	児童養護施設
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

2008年9月1日

総 評	<p>昨年設立60周年を迎えられた貴施設は、終戦直後に養護を必要とする環境に立たされた子ども達のケアを時代のニーズのもと設立されました。現在、時代の変遷によってそのニーズは変化していますが、仏教者である設立者の思いが現在の運営の根底にあり、指針となって引き継がれていることを多くの資料から見い出すことができました。特に昨年発行された60周年記念誌にも、そのことを読み取れる記述が伺えます。</p> <p>施設の実践においては小舎制、中舎制と呼ばれる体制をとり、専門機関としての機能を充実させながらも、子ども達の発達段階にあわせたケアとより家庭に近い環境を提供しています。</p> <p>4つに分けられた「きら星」、「やま水」、「そよ風」、「青空」各棟の自主性を重んじ、より個別的な配慮をもって子ども達の成長を育んでいます。画一的な対応ではなく、部活動で遅く帰園する中高生に対して食事、入浴の配慮等が行われています。それは、小・中舎制のメリットでもあり、一人ひとりの子ども達を大切にしている実践と受け取れます。</p> <p>ボランティアと実習生の受け入れに関しては積極的な姿勢をもっており、社会福祉施設としての社会貢献と人材育成に貢献されています。さらにマニュアル等の作成により、スムーズな受け入れと対応を促進できると考えられます。また、不慮の事故などを未然に防ぐことや、事故が起こった場合の的確な対応を可能とします。マニュアル等の整備は、業務全般の質の標準化、安全管理、業務運営上で重要です。職場内に対策委員会等を設け、その具体的な検討が求められます。</p> <p>時代の変遷とともに社会が変化し、今後さらに施設に求められるニーズも変化していくことでしょう。心に傷を負った子どもや発達の遅れのある子ども等、より専門的な機能を持つ必要性が求められます。そのような細分化された高度な専門性と機能を持ちつつも、貴園の基盤となる理念を常に確認され、子ども達の幸せのため、今後も実践を積み重ねられることを期待しています。</p>
-----	---

<p>特に良かった点(※)</p>	<p><b>I-1-(1) 理念・基本方針が確立されている</b>        青葉学園信条、運営機構・職務分掌、パンフレット等に理念が明記され、広く周知されている。</p> <p><b>II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている</b>        社会資源は十分にリスト化されている。地域諸機関との連携は、児童相談所をはじめ、各方面との定期的会議や日常的な情報交換など、しっかり実施できている。</p> <p><b>A-2-(1) 日常生活支援サービス・援助の基本</b>        児童会の開催における一人ひとりの子どもの自発的生活を大切にする姿勢と、棟単位での小集団のメリットを生かした配慮が随所にみられる。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p><b>II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組み</b>        リスク管理についての基本的な視点や日常の取り組みは意識してできているが、マニュアルの整備と研修の実施が望まれる。</p> <p><b>III-1-(1) ②利用者のプライバシー保護に関する規定・マニュアル等の整備</b>        運営審査委員会は設置されているが、マニュアルの整備が不十分である。</p> <p><b>III-2-(3) ②利用者に関する記録の管理体制の確立</b>        利用者の記録管理について、責任体制の明文化がされていない。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【共通評価基準】

# 評価結果対比シート

---

受診施設名	青葉学園
施設種別	児童養護施設
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2008年8月2日

## I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-1 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	A	A
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	A	A
	I-1-2 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	A	A
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	C	B
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	A	A
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	A	A
	I-2-2 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	A	A
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	B

## 【自由記述欄】

I-1-1	青葉学園信条(理念)、運営機構・職務分掌に明記されている。
I-2-2	①棟ごとの会議と運営会議がリンクしている。職員による提案制度が機能している。
	②棟ごとの会議と児童会にて計画の説明をしている。
I-3-1	①運営機構・職務分掌に明記。職員へのアンケート、提案制度が実施されている。
	②遵守すべき法令のリスト化がされていない。
I-3-2	①職員ヒヤリングと提案制度の導入により職員の意見を把握し、運営委員会にて具体的な取り組みに反映されている。

## II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	A	A
		③ 外部監査が実施されている。	C	C
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	B
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	C	B
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	B
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	C	B
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	B
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	B	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	A	B
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	A	B
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	B
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	A	A
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	A	A
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		A	A	

## 【自由記述欄】

II-1-(1)	①借入金の返済計画を含め計画的な数値管理ができています。
	③外部監査は実施されていない。
II-2-(1)	②人事考課は導入されていないが、導入に向けて検討されている。
II-2-(4)	①実習生の受け入れに関しては、積極的姿勢をもっておこなっているが、マニュアルが整備されていない。
II-3-(1)	リスク管理についての基本的な視点や日常の取り組みはしっかりと意識されているが、マニュアルと研修計画が不十分である。
II-4-(1)	③ボランティアの受け入れに関して、積極的に行われているが、マニュアルが未整備である。
II-4-(2)	社会資源はリスト化されている。地域諸機関との連携は、児童相談所をはじめ、各方面との定期的な会議や日常的な情報交換など、しっかり実施できている。

## Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	A	A	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	C	B	
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	B	A	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	A	A	
	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	A	A	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	未記入	A	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	未記入	A
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	未記入	B
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			未記入	B	
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	A	A	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	A	
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	A	A	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		A	A	
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	A	A	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。	① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	A	A	
		② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	B	A	
	Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	未記入	A	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	B	A	

## 【自由記述欄】

Ⅲ-1-(1)	① 運営審査委員会が設置されている
	② マニュアルの整備が不十分である。
Ⅲ-1-(2)	① 棟ごとに随時面接等を行っている。嗜好調査が実施されている。
Ⅲ-2-(1)	②③ 取り組むべき課題の明確化が不十分。
Ⅲ-2-(3)	② 利用者の記録管理について、責任体制の明文化がされていない。
Ⅲ-3-(1)	児童相談所等の連携のもと、可能な限り保護者・家族と本人に十分な説明を行っている。
Ⅲ-4-(1)	アセスメントに関する様式をもとに定期的に行われている。個別の養護支援計画が作成され、定期的な見直しもされている。
Ⅲ-4-(2)	① 養護支援計画が作成されている。
	② 棟単位での会議が定期的に行われている。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【付加基準】 評価結果対比シート

### 児童養護施設

---

受診施設名	青葉学園
施設種別	児童養護施設
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2008年8月2日

## 【付加基準】児童養護施設版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-1 利用者の尊重	(1) 利用者の尊重	① 子ども自身が自分たちの生活全般について自主的に考える活動(施設内の自治会活動等)を推進し、施設における生活改善に向けて積極的に取り組んでいる	B	A
		② 施設を行う援助について事前に説明し、子どもが主体的に選択(自己決定)できるように支援している	A	A
		③ 多くの生活体験を積ませる中で、子どもがその問題や事態の自主的な解決等を通じて、健全な自己の成長や問題解決力を形成できるように支援している	B	A
		④ 多くの人たちとのふれあいを通して、子どもが人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重し共生ができるよう支援している	B	A
		⑤ 子どもの発達に応じて、本人の出生や生い立ち、家族の状況等について、子どもに適切に知らせている	A	A
		⑥ 体罰を行なわないよう徹底している	A	A
		⑦ 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切な関わりの防止と早期発見に取り組んでいる	A	A
		⑧ 子どもや保護者の思想や信教の自由は、他の子どもや保護者の権利を妨げない範囲で保障されている	A	A

## 【自由記述欄】

A-1-(1)	①棟単位で月に1回児童会が開催されている。
	③④少人数でのグループ活動の機会を増やし、こども自身の意志表現や問題解決能力を育成する工夫がされている。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 日常生活支援サービス	(1) 援助の基本	① 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、常に個々の子どもの発達段階や課題に考慮した援助を行っている	A	A
		② 子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている	A	A
	(2) 食生活	① 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を払っている	A	A
		② 子どもの生活時間にあわせた食事の時間が設定されている	A	A
		③ 発達段階に応じて食習慣を習得するための支援を適切に行なっている	A	A
	(3) 衣生活	① 衣服は清潔で、体に合い、季節にあったものを提供している	A	A
		② 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように援助している	A	A
	(4) 住生活	① 居室等施設全体が生活の場として安全性や快適さに配慮したもになっている	A	A
		② 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう援助している	B	A

## 【自由記述欄】

A-2-(1)	児童会の開催における一人ひとりのこどもの自発的な生活力を大切にする姿勢を、居住区単位での小集団のメリットを生かして具体的に援助を行っている。
A-2-(4)	①居住区ごとにくつろげるスペースが設けられている。また、緊急時避難や外部侵入者への対応がされている。
	②小学生高学年からは職員の援助のもと、片付け等を自ら行えるよう機会をもうけている。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A-2 日常生活支援 サービス	(5)衛生管理・健康管理・安全管理	① 発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している	B	A
		② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している	A	A
	(6)問題行動に対する対応	① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に適切に対応している	B	A
		② 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている	A	A
		③ 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体に徹底している	B	A
	(7)自主性・自律性を重視した日常生活	① 行事などのプログラムは、子どもが参画しやすいように計画・実施されている	A	A
		② 休日等に子どもが自由に過ごせるよう配慮している	A	A
		③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している	B	A
		④ 子どもが友人や地域との関係を深められるよう支援している	A	A
	(8)学習支援、進路指導等	① 学習環境の整備を行い学力に応じた学習支援を行なっている	B	A
		② 学校を卒業する子どもの進路について、「最善の利益」に合った進路の自己決定ができるよう援助している	A	A
		③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる	B	A
		④ 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている	B	B
	(9)メンタルヘルス	① 被虐待児など心理的なケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行なっている	A	A
	(10)家族とのつながり	① 児童相談所等と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりができています	A	A
		② 子どもと家族の関係づくりのために面接、外出、一時帰省などを積極的に行なっている	A	A

## 【自由記述欄】

A-2-(5)	①退園後の生活を想定し、健康面での自己管理が行えるよう、嘱託医との連携のもと棟ごとに指導している。
A-2-(6)	学校との日常的な連携や、必要に応じて心理士の専門的なカウンセリングなど、一人ひとりの子どもに則したきめ細やかな支援がみられる。
A-2-(7)	②休日は起床時間を自由にしたり、一定のルールを設けパソコンが使用できる。
A-2-(8)	①自室の勉強机とは別に自習室をもうけ、通学校の加配教員とボランティアによる学習指導が行われている。
	②③退園後の生活を見据えた指導の一環として、アルバイトによる収入確保を施設の責任の下、近隣のスーパー等に依頼し実施している。
	④発達年齢に応じた教育、指導の実施が望まれる。